

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社おいらーく	代表者	星野 二三江	法人・事業所の特徴	東区を中心に医療・福祉施設・介護事業所を展開する豊生会グループの事業所。住宅型有料老人ホーム CoCo 東雁来式番館に併設されていて、事業所のご利用者様は併設のホームに入居をされている方が主となっている。新興住宅街のなかにあり地域的に若いご家庭と子供が多い。
事業所名	えくぼ東雁来 サテライトえくぼ東雁来	管理者	大場 絢太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1	1	人	人	1	人	3	人	6

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き感染対策を行い、短時間でもケア会議やチーム会議を実施できるような体制作りを心掛ける	出来るだけ会議時間の短縮を図りながらも、意見交換を重ねてきた。	職員間で自己評価に取り組んでいることが見て取れる。	自己評価9項目について、改善計画通りに取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染状況を確認しつつ、引き続き環境作りや関わり方を考え対応していく。予防しながらの面会等も注意しながら実施していく。	保管物の整理を行いながら、衛生面でも普段あまり手のついていなかった部分の清掃も実施してきた。	入館する際にも施錠がされている施設もある中、自由にでいる事業所となっている。	防犯や離設のリスクとのバランスをとりながら、可能な限り外からのカギは開いておく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域との関りは難しいものの、少人数での楽しみ方を模索し、実施していく。外出の機会も設け、地域に出向いていきたい。	感染予防で実施できなかったが小学生や地域の方からの催しの提案などを頂けて、関りを持っている。	地域の人にはどういった場所なのかは知られていると思う。何か地域に向けての役割などもアピール出来たらよい。	年数回でも事業所主催の地域向け行事等を企画開催してみる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域へは感染状況を見ながら、外出レクやDTも絡めた行事も個人や全体も交えて行っていきたい。	地域行事にはごく少数の方のみの参加にとどまった。	関わろうという姿勢があることが確認できる。	地域行事等の際には職員の勤務調整をおこないながら、事業所として積極的に関わっていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	パーテーションやフェイスシールドの徹底、換気をしながらの実施。感染状況で開催できない場合、書面と写真でメンバーに報告する。	意見交換はおこなっているが、今年度は地域とのかかわりについての具体的な取り組みの実績はない。	以前は地域の心配な方に対しての支援を行った実績もある。今後もしそういった事例があれば相談できる場所となっている。	地域の方の相談も受けていける事業所となれるよう、体制を整えていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の避難訓練の実施。担架を用いて訓練を行う。さらに、2階のご利用者様は、階段を使用している訓練を年1回は行う。	計画通りに避難訓練を実施。防災備蓄の見直しも行なっている。	地域の方が避難したいときに受け入れてくれる場所であってほしい。	防災備蓄等は一定程度備えているが、災害規模によってはまったく十分でないため、可能な限り揃えておくようにする。